

一期一絵・・・

SILKLAND

gallery news & communication

No.105

ギャラリー通信 Sep 2017
<http://www.silkland.co.jp>



Vivle 2017

— 日常の煌めき — 女流画家五人展

9/3(日)～16(土) ※最終日は午後5時まで

9/3(日)午後5時から 出品作家によるギャラリートークを行います。

ごあいさつ

日常の中にあるささやかな喜び、愛しいものとの出会いが女性ならではの視点で描き出された作品は、普遍的なモチーフでありながらも見るものそれぞれの発見に満ちている。
今展では十五夜のお月さまを心待ちにする前夜の心の揺らぎを、テーマ「待宵」で各々の想いが作品にどう反映されたかもご鑑賞いただきます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

2017年8月

シルクランド画廊

Chikako Matsuya
松谷 千夏子

1959 神奈川県横須賀市生まれ / 83 多摩美術大学 絵画科日本画専攻
(加山又造教室) 卒業 / 85 多摩美術大学大学院修了



《NOON 一葉影》F30



《ピンクのしべのばら》F0

Sayuri Kitamura
北村 さゆり

1960 静岡県藤枝市生まれ / 86 多摩美術大学 絵画科日本画専攻 (加山又造教室) 卒業 / 88 多摩美術大学大学院修了



《朱い実と青いドングリ》M4



《春の空》P12



Rie Yamada 山田 りえ

1961 京都市伏見区生まれ / 83 多摩美術大学 絵画科日本画専攻 (加山又造教室) 卒業



《すもも》F4



《Lotus》S4



Yuki Maruyama 丸山 友紀

1975 愛知県生まれ / 98 早稲田大学第二文学部美術専修卒業 / 2000 早見芸術学園造形研究所日本画塾卒業



《子犬の潜む庭》S4



《Rabbit Garden》P4



《小望月》M3

Kiyomi Koshihata 越畑 喜代美

1960 神奈川県川崎市生まれ / 84 多摩美術大学 絵画科日本画専攻 (堀文子教室) 卒業 / 86 多摩美術大学大学院美術研究科修了



《日々咲花》30×30cm

Tema of Vivle
Vivle 2017 テーマ

まつよい
待宵



松谷 千夏子《MOON—待宵の月》W3F

十四日月は待宵の月ともいいます。夏が終わって満月を待つ夜、そんな雰囲気を感じました。
去年の秋には「夏の果(なつの果)という言葉からイメージして絵を描きました。つくづく日本語の季節を表す言葉は魅力的だと思っております。



丸山 友紀《宵待猫》WSM

テーマの待宵から竹久夢二の「宵待草」を連想し、待てど暮らせど来ぬ何かを待つ猫を描いた。長らく動物を描き続けているが、私にとって動物は夢二にとっての女性のようなものかもしれない。ただし動物達は女性と違い、やるせなく憂愁に沈むことはなさそうだ。(犬は違うかもしれない)この猫もただ真剣に何かを待っている。何を待っているかはわからない。



山田りえ《待宵》WSM

子供の頃、夕暮れ時が苦手でした。待ち人などいないのに、時々なんの脈絡もなく胸が締め付けられるような感情が湧き起こり、世界が虚しくなりました。夜の帳が下りるのが待ち遠しく、月など出るとやっとホッとできる穏やかな時がやって来ました。
今は美しい夕暮れにうっとりできる自分があります。あれは一体なんだったのでしょうか。



越畑 喜代美《採果観月図》F6

夜中にひまいと天窓からお月さんに覗かれていると思う時がある。「明日は満月だからね」とお月さんが言うわけないが、次の日にはすっかり忘れてる。また夜中の天窓で出くわしてなんだか申し訳ない気持ちになる。
お団子こさえて芒を活けたお月見を随分としていない。そのうちね。



北村 さゆり《蟲時雨》M6

「季寄せ」によると、蟲は秋鳴く虫の総称で、秋の夜の寂寥を深めるとあります。待宵は十五夜を待つ前日の宵。蟲時雨が挿入音となり、見上げてる銀河はぐわあんぐわあんとわみはじめました。あわやすいこまれてしまいそうです。

シルクランド画廊 開廊時間:11:00→19:30(土・日・祝日は18:30まで)

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-5-11 第15丸源ビル1階

Tel 03-5568-4356 Fax 03-5568-4357

http://www.silkland.co.jp e-mail gallery@silkland.co.jp

アクセス ■ 地下鉄丸の内線、銀座線、日比谷線「銀座駅」B7,B9,C2出口 徒歩2分 ■ JR「新橋駅」銀座出口 徒歩6分

